

広報

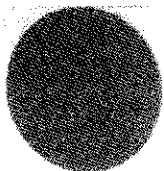
まの山

最終号

3月号

2005. No.349

松之山町閉町式典



ありがとう松之山町

未来へはばたけ松之山地域!



3月号のMENU

松之山町閉町式典	P2~3
閉町のごあいさつ	P4~5
閉町にあたり各地区協議会長より	P6~7
シリーズ 地球温暖化防止(第3回)	P8~9
NPO法人「松之山いきいき隊」設立	P10
まちかどあれこれ	P12
新1年生27名の紹介	P13
お知らせ・情報コーナー	P14~15
漫画ガイド	P16~17
「森の学校」キョロロより	P18
4月のカレンダー	P19



松之山町閉町式典

～ありがとう まつのやま
そして 未来につなぐ我が郷土～

半世紀にわたる町の歴史に幕

松之山町閉町式典



式辞を述べる佐藤町長

来賓を含め500人が出席

松之山町を名残惜しむかのように降る雪で辺り一面純白と化した3月13日(日)、松之山町閉町式典が松之山町民体育館で開催されました。当日は、泉田県知事代理の村山秀幸上越地域振興局長や村松二郎県議会議員はじめ、滝沢信一十日町市長や関谷達治松代町長など合併関係市町村長や東頸城郡内の前町長ほか、多数の来賓や小中学生、一般町民など約500人が出席し、半世紀にわたる町の歴史に別れを告げ、松之山地域の新しい船出へ向け決意を新たにしました。

式典で佐藤町長は「歴史ある松之山町の名が無くなることはさみしいことではあります。町名が無くなっても、この大地は無くなりません。住民も移動することではありません。温泉や

自然、食、人情など豊かな地域資源を活かし、住民が自信を持って、夢のある、ここに住んで良かったと言える輝く地域づくりに向けて、行政と住民が一体となって取り組み、更に発展することをお祈りします。」と式辞を述べました。

町政功労者を表彰

長年にわたり町政の進展に功績のあつた方々への町政功労者表彰では11名と2団体が表彰され、佐藤町長から各々に表彰状と記念品が贈られました。被表彰者を代表して元助役の田辺誠二さんが「これからも、この感動を胸に、その本旨を胆に銘じ精進したい。守り続けられてきた松之山の歴史、伝統・文化・産業の発展をお祈りしますと共に、新生十日町市が力強く成長することを祈念いたします。」と謝辞を述べると、会場から大きな拍手が贈られました。



被表彰者を代表して謝辞を述べる田辺誠二元助役

民話劇「蛇切丸」の上演

アトラクションでは、地元伝わる民話劇「蛇切丸」(じやつぎりまる)を浦田小学校児童が演じました。台本制作にあたっては、子供たちが地元に残る資料やお年寄りから聞いた話を基に、結末を変えたオリジナルな作品に仕立て上げ、思いやりや助け合いの大切さを訴えました。当日は、全校児童24名のうち6名がインフルエンザで休むという事態の中、残った19名児童と職員8名が力を合わせて見事に演技終わると、会場から拍手喝采をあげました。



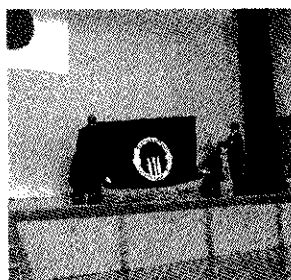
感動を呼んだ浦田小学校児童の民話劇「蛇切丸」

松之山町民歌の合唱

式典の終盤には、町内小中学校の全児童生徒が壇上に登り、松之山町民歌を大きな声で合唱しました。この合唱には一般の方々も加わっていただき、歴史ある松之

町旗が降納される

式典の最後には、佐藤町長と村山議長らの手によって、ゆつくりと町旗が降ろされ、丁寧に折りたたまれました。町長が厳かに町旗を納め終わると、会場全体が静まり返り、伝統ある松之山町の歴史が閉じるという実感と、新生十日町市のスタートへ向かう思いを新たにし、感動の式典が終了しました。



式典の最後に静かに降納された町旗



歌詞を噛みしめながら歌った町民歌の合唱

山町に別れを告げるかのように、歌詞の一言ひと言を噛みしめるように、心を込めて力強く歌いました。

町政功勞表彰



佐藤大治(元議会議長)



南雲力蔵(交通指導員)



榊吉池(団体表彰)



田辺誠二(元助役)



志賀一枝(ボランティア活動)



東京松之山会(団体表彰)

※村山政光さん、大見勝平さん、福原一雄さんは、都合によりご欠席されました。

町政功勞者被表彰者 (順不同・敬称略)

氏 名	年 齢	住 所	功 績 事 由	通 算 年	備 考
佐藤 大治	82	松之山町大字天水越	元議会議長	40	議長20年 議員20年
村山 政光	80	松之山町大字松之山	元町長	40	町長20年 議員20年
大見 勝平	92	松之山町大字下殿池	元助役	30	助役12年 収入役18年
田辺 誠二	80	松之山町大字松口	元助役	21	助役4年 収入役17年
五十嵐成男	80	上越市浦川原区	元診療所医師	42	内嘱託7年
久保田和夫	76	松之山町大字天水島	選挙管理委員会委員長	24	内委員長20年
福原 一雄	79	松之山町大字天水越	元人権擁護委員	22	
猪俣 栄二	70	松之山町大字松之山	行政相談員	19	
長沢 幸雄	74	松之山町大字天水島	交通指導員	31	
南雲 力蔵	74	松之山町大字浦田	交通指導員	31	
志賀 一枝	75	松之山町大字三桶	ボランティア活動	17	
榊 吉 池		台東区上野3-27-12	団体表彰		
東京松之山会		座間市さがみ野1-8-11	団体表彰		



五十嵐成男(元診療所医師)



久保田和夫(選挙管理委員会委員長)



猪俣栄二(行政相談員)



長沢幸雄(交通指導員)



式典終了後の直会の席上
では、佐藤町長さんに
東京松之山会から感謝状や
花束等が贈呈されました。

閉町のごあいさつ

町政の舵取りをしていただきました佐藤町長、村山議長、小野塚助役、柳教育長が、市町村合併により3月31日をもって退任されます。長い間のお務め、大変お疲れ様でした。それぞれの方々から在任中のご苦労や思い出、合併についての考え、松之山地域の発展に向けたメッセージ等を語っていただきました。



思い出

松之山町長 佐藤 利幸

あと僅かで市町村合併により松之山町が無くなるということになったが、幕引きをせざるを得ない立場となり、歴史の一頁をなす今年を町長として迎えたことは、一抹のさみしさを感ずるとともに感無量であります。9年半ばかり町長職を担ったことを通じて思い出となることは数多くありますが、すべて記すことはできませんので、二点ばかりに絞って書くことにいたします。

希望の里 松濤園の誘致

浦田地域においては町の施設として目ぼしいものがないので何とかならないかと考えておりましたが、浦田地区出身の早川幸夫さんが、千葉県市川市在住の家政婦紹介所等を経営している大熊次夫さんと近しい関係にあり、早川さんは浦田の飯塚哲郎さんと友人でもあり、何か浦田地域の振興になるものを誘致できないかと、飯塚さんに相談されていたと聞いておりました。

当時大熊さんは、秋田県内にある特別養護老人ホームが経営破たんに近い状況となり経営建て直しを依頼され、その特別養護老人ホームの運営を軌道にのせ、更に拡大したいという考えでおられたということです。早川さんの紹介で浦田へ度々訪れていたいたたり浦田地域のみなさんと話し合ったりした結果、浦田中学校跡地を活用することになり、用地は町で寄付をすることで話が決まり、誘致することができました。

100床規模で10億円を超える投資により老人保健施設ができ、現在順調に運営されておりますことは、誠に喜ばしい限りであります。いつも満床状態であり、身近に入所施設ができたことと同時に、従業員のみなさんの就業の場を確保したことを喜んでおります。社会福祉法人松濤会では、千葉県市川市に老人保健施設がオープンし、また上越市に特別養護老人ホーム・老人保健施設の建設が本決まりとなり喜んでおりますが、今後も更にご発展することを祈っております。

松之山バイパスの改良整備

高館トンネルの掘削については、前任の村山町長さんの尽力により採択されたものですが、私が就任してから着工であり、町内を縦貫する幹線道路でありますので、1年でも早く貫通し供用開始できるようにとあらゆる機会を通じて国や県に要望してきました。パブル崩壊以前であれば予算も順調に投資できる環境にあっただろうと思われませんが、国の予算も年々厳しくなり特に公共事業の削減が強調されるような状況となって思うように進捗できませんでした。数多くの思い出がありますが、限られた紙面であり前と比べて思い出さずしていただきました。合併し新十日町市が誕生しても、松之山地域の大地が無くなることはなく、住民も移動することはありません。夢の持てる地域づくりに、行政・地域が一体となって協働して輝く地域づくりに向けて前進することを切に願うものであります。



未来に向かって……

松之山町助役 小野塚 良雄

「春はひと足 おくれても……」「夏はひと声 アカシヨビン……」「秋はもみじに つつまれて……」「冬は粉雪 まうけれど……」と町民歌で歌われている、四季が鮮明で自然豊かな松之山町。

昭和30年に松之山村と浦田村が合併し、町の基礎を作り、昭和33年に町制施行により松之山町となって、46年と5ヶ月でその歴史に幕を閉じることになりました。長年の歴史を紐解くとき、「陸の孤島」と称され、厳しく、暗く、ひたすら耐えるだけの豪雪との戦い、中山間地域特有の地すべり災害の復旧対策、日本の原風景樹田の早魃・冷害対策、過疎化・高齢化・少子化の救済にもまれ、この間、多くの先人のご苦労とご努力により、幾多の苦難を乗り越えながら、町民一丸となり忍耐強さと協働の力で、地域の安全と、住民生活の安心・安全の確保に努めながら、松之山町の歴史が築かれてまいりました。

いよいよ4月1日には合併です。ともすると合併は、負の部分だけが取り沙汰され、新しい町づくりに目を向けまいしてしまうことがあるように思います。

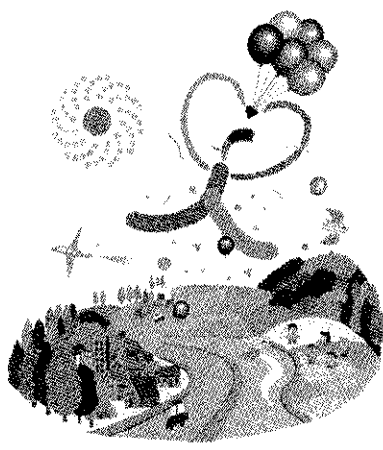
合併は不安がないわけではありませんが、町民の皆さんに負担と責任をお願いしなければならぬ部分もあります。

しかし、今回の合併は新しい時代へ新しい考え方で、どう地域づくりをするか、松之山地域として、挑戦することだと思っております。

地域づくりは、画一的な地域づくりをする必要はないと思います、それぞれの良さ、特色を出しながら、新市全体として発展するのが理想だと思います。

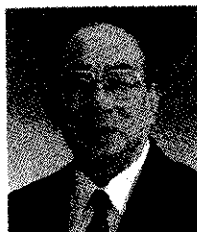
町名は消えますが、地域は消えません、住む人も変わりませんが、新市では地域資源や地域の宝を大切に、個性を生かした松之山地域の、あたらしい地域づくりに、一丸となって邁進しましょう。

8年間という長い間、皆様からいただきました、ご支援・ご協力に心より感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございます。



～長い間のご尽力に感謝します～

町長・議会議長・助役・教育長



新たな歴史の第一歩

松之山町議会議員 村山 里志

19年ぶりの豪雪は3月に入っても積雪量が4m近くもあり、春には程遠い感じがします。しかし、大地をはじめ自然界の躍動は始まっており、早々に桜前線の開花予想を発表しております。中越地震の恐怖感があるだけに、改めて自然界の恵みのすばらしさと恐ろしさを実感しました。

さて昭和の合併から半世紀、50年の松之山町の歴史が一つの節目を迎えました。2年以上にも及ぶ5市町村合併協議会も3月4日には900近い協議項目のすり合わせ終了し、解散が決定しました。決して平坦な道ではありませんでしたが、いよいよ4月1日から新市十日町市が誕生し、新たな歴史のページと新市の第一歩が始まります。この一歩は覚悟と期待の第一歩だと思えます。「新市に対する新たな時代」そして「新たな歴史のステージ」への第一歩だと思えます。

昭和の合併は戦後の復興を目的に、中学校を一つの最低限単位に再編という目的があり進められたのと、時代の流れもあり村から町になる期待感というものが、明るい希望と夢になっていたのは鮮明に残っております。昭和30年3月31日（1955年）に松之山村・浦田村の2村が合併、その3年後の11月1日には町制を施行して松之山町となりました。合併当時の人口は1万1千人おりました。

これに比べ平成の合併は、財政難や少子高齢化のインパクトを強いることが、交通・通信手段の理由があったにしても、これが夢や希望・理念に欠けるように思うのは時代の流れか、一抹の淋しさや万感胸に迫るものがあります。今年は戦後60年となりました。戦後復興から今日までに先人先達者をはじめ関わられた三代の町長、先輩議員、町民のすべての皆様方のご尽力と努力で、過疎・少子高齢化の進むなか素晴らしい飛躍の進展を成し遂げたと思えます。

春夏秋冬の四季おりおりの感性豊かな大自然、松之山町の優れた人材・伝統・文化も土地と共に何処にも行きません。

合併が決定した以上、住民自ら地域づくりに協働して、英知と努力を結集してゆとりと豊かさや活力ある新市の核となり発展することをご祈念いたします。

21世紀の我が国は、世界に類例をみないスピードで人口構成の高齢化が進んでいるといわれております。合併と同じく、これも避けて通れない道だと思えます。

最後になりましたが、新市の発展、町民各位のご健勝はもとより、今日まで献身的にご苦勞されて町職員に心から感謝を申し上げますと共に、長きにわたりご指導ご支援ご協力を賜り本当に有難うございました。



市町村合併に寄せて

松之山町教育長 柳 能弘

昭和30年に松之山村と浦田村が合併して50年、その10年前の終戦から60年目に松之山町を含め5市町村が合併して新十日町市となることになりました。私が昭和37年町職員に採用となり42年が経過することになります。この間多くの方々にお世話になりご指導いただき大変ありがとうございました。感謝を申し上げます。

歴史の年表から見ればミリ以下の線の期間であると思いますが、時代変化というか人の考え方の進歩というか町の変わり方は超特急のスピードであったように思えます。農山村では田畑が生産の場であり職場でありましたが、先祖代々守り続けてきたその基盤が短い期間にさま変わりしてしまいました。

昭和40年代後半から過疎と高齢化、そして少子化という言葉が日常語のようになってきました。しかし、よく見れば農山村が一律の状況で過疎や少子化が進んでいるかというところでもないところも見られます。市町村内の地域を単位とした場合に意外と少子化が緩やかなところがあります。そこが暮らしやすいとすればどんな地域づくりをしているのか、子育ての環境がよいとすればどんな人間関係が構築されているのかがわかるような感じがします。

国と地方を合わせて700兆円を超える膨大な借金。地方の事情を無視した行財政改革であります。国庫補助金を減らしその額より遙かに少ない税源移譲をするのだという。補助金を減らすということは国ではそのための仕事と事業がなくならない。平成10年頃、将来は地方交付税が近いうちに減額となりそうだから財政調整基金は松之山町の場合3億円以上を目標にしておかないと財政運営が出来なくなることが予想されていきました。が現実のものとなつていきました。今は一年先の財政計画も保証できないという苦しい状況にあります。市町村合併も財政が起因するところがあります。これも時代の流れということで決めつけるにはあまりにも酷のように思うところであります。

合併について松之山町が選択するまでには、町民講座をはじめ自主的活動の会が提案事項など議論するための情報を提供されました。充分議論が尽くされたとは言えないと思いますが、このことは大変意義があったのでないでしょうか。

合併後は、松之山地域の「地域づくり」は住民参画型により多くの意見の違う人々といかに合意していくことが出来るかが鍵を握っているものと思えます。自ら治める地域づくりで発展することを願っています。

地区協議会長からのメッセージ

市町村合併により「町が閉じる」という歴史の大きな節目を迎え、住民のどんな様も、松之山町への愛着の念、新市になることへの不安、新しい展望の模索など、さまざまな想いが交錯していることと思います。広報まつのやま最終号では、各地域のリーダー役として頑張っておられる各地区協議会長さんより、それぞれの地域の歩みや思い出、そして合併後の将来展望などについて語っていただきました。



最終号に寄せて

松之山地区協議会長 小林 要一

「広報まつのやま」がこの号で最終号となることで誠に寂しいことですが、これも、この松之山町の人口が3千人を割り、松之山町がますます少子高齢化になり、財政的にもきびしい時代になることから、合併することが松之山町にとっては良かったことかと思えます。

松之山地区協議会は発足当時、松之山地区の皆さんの親睦を深めるために設立されたと聞いております。当時は、春の桜の時期に各地持ち回りで見聞大会を開催し、皆さんの親睦を深められたと聞いております。その後花見大会は、日帰り視察旅行に変わり今に至っております。今はその他、地区の体育協会の皆さんからご協力をいただき、湯島運動会、校区民大運動会等にお手伝いさせていただきました。又、毎年暮れには、振興事務所等に御礼と御願いに、委員の皆様方と回らしていただきました。

今後は、新市になると地形的には、今の松之山町は市の中心部から端の方になってしましますが、親睦を深めるだけでなく、取り残されないように、又、松之山地域が活性化するように皆様と知恵を出し合い、委員構成と規約の改正も含め考えてゆかなければならないと思います。地区の皆様、ご協力を御願ひ致します。



「三省魂」よ永遠に

三省地区協議会長 相澤 正平

幾多の協議や調整を重ね、紆余曲折はありましたが、いよいよ新「十日町市」になることを迎えております。町の歴史にとっても、住民の皆さんにとっても大きな節目を迎えたわけで、不安と希望が交差しているのも事実と認識してあります。然し、国・県や町の今後の財政状況や人口減、少子高齢化の現実を見ると、やむを得ない選択といわざるを得ません。

わが地区である「三省」を振り返ってみると、忘れてならないのが昭和63年の三省小学校の閉校であります。113年の歴史に終止符を打ち統合すると言うことは当時、地区民の苦渋の選択でありました。町当局と地区民の協議の上、発展的な統合ということで住民が納得したわけですね。協議会もそのまま継続ということで、春の観桜会をはじめ夏の体育祭、東京松之山会との交流、校舎の跡地利用となった東京小平市の国際製菓専門学校生徒の受入れ等、地区協議会、地区体協、分館の3本柱の協力で、学校があった時と同様もしくはそれ以上に活動してきたといっても過言ではないと考えます。

常に「住んでいて良かった」地域づくりを目指して地域の活性化を図り、住民の相互連帯感を「真ん中」に置き活動を続けてきました。そして今、年々少子高齢化が進んでいる現状を見ると、この課題を乗り越えることが最大の課題であります。今後、更にお互い助け合いの精神をもつていかなければなりません。

小規模な地域とはいえ、幾多の賢人を輩出してきています。「三省」に住んでいることは、いつも誇りに思っております。合併にはなりますが、今後も「三省魂」が永遠に受け継がれていくことをお互い願ひながら、活動を進めて参りたいと考えております。

「温故知新」

松里地区協議会長 久保田 和夫

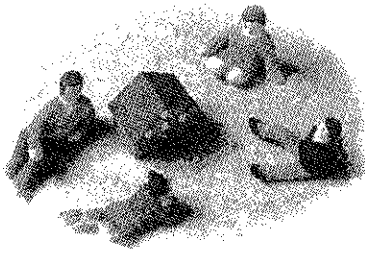
松里地区の広域的な運営による業務の効率化と、相互の協力により地域の発展に寄与する為、地区協議会として発足したのが昭和47年。あれから30年が過ぎ、この度の市町村合併に当たり、地区協議会の在り方もまた検討の必要があるかも知れぬので、当地区協議会の今迄の主なる仕事の内容を簡単に記してみたい。

創立当初より、3集落（現在240戸）の意見・要望の取りまとめ、関係機関への連絡・協調、公共施設の運営に対する協力と後援等は、何れの協議会もやっている事と思うが、地区の諸負担金の計算徴収事務について事務局を設けてやっている事、又、役場からの毎週の文書は、協議会で3集落各別（33班）に分別し、各班長を通じて各班へ配布している事等である。各種負担金の徴収については、役場より早く口座振替に切り替えており、松里かんばい返済金を始め、小学校給食費、各種募金等、協議会で徴収するものは一切口座振替で、班長・区長の仕事の軽減に役立っていると思う。

以上が当協議会の主なる仕事であるが、これらに伴う管理運営費も他の地区より多少は多くかかっており、この運営については今後の検討課題であらう。

市町村合併により、僻地の小集落の要望等は今迄と違って行政に反映しにくいと思うが、その為にも松之山一円の協議会と各地区協議会の存在が重要になって来るものと思われる。

地域や町の事、合併後の将来展望などを書けと云うことでしたが、老兵は既に過去の人間につき、「温故」の面に少し触れ、「知新」の面は今後を担う皆様の御活躍に期待申し上げて、結びとします。



懐かしい思い出..... そして未来への夢!!!

上布川地区の発展を期して

上布川地区協議会長 樋口 一次

国際化・情報化といった社会環境が大きく変化する中、少子化や高齢化等なかなか簡単には解決できない様々な問題を抱えています。46年5ヶ月で由緒ある歴史をもった松之山町が幕を閉じることにになり、社会情勢とはいえ誠に残念であります。

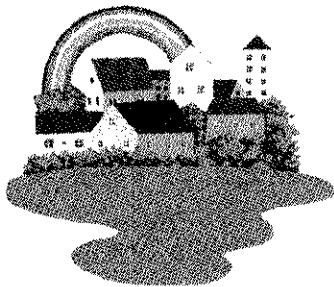
当地域の東川小学校も、平成9年に全校児童が1桁台になり、松之山小学校へ統合しました。校歌に「四圍の山並み高くとも、降り積む雪は深くとも、自きようと自治と協力の行手さえる何かある」と歌われているように、山々に囲まれ、豪雪、長い冬等、厳しい環境の中で育ってきました。こうした環境の中で忍耐力や気力が培われ、多くの入道がそれぞれの場で活躍されています。特に自立自営業者が多く活躍されていることは当地区の誇りであると思います。

上布川は現在、戸数123、人口293名です。住民一人一人の個性を大切にしながら、話し合いによって連帯感を高め、今後の上布川地区を特色ある明るい地域にするために取り組んでいきたいと考えております。

合併は時の流れの一環であり、新しい時代への出発と考えたいと思います。

(何事にも替え難い心安まる松之山を今後も大切にしていきたいものです。そして、上布川地区が益々発展していくようにお力添えをお願いします。)

たします。



思い出と新市の夢

下布川地区協議会長 村山 里志

平成の合併により松之山の歴史が、新たな出発の第一歩として4月1日から始まるようとしております。一歩には適なき道の第一歩もあれば、十里百里の旅の第一歩もあります。それぞれ同じ一歩でも、覚悟はみな違っています。新市への合併も、今後百年・千年と続くかも知れぬ「新たな時代を生き抜く」ための「勇気ある第一歩」が求められているかも知れません。

昭和の合併は、若さもあつて鮮明に残っており、さすが、今の合併と異なり希望・夢があつたように感じております。戸数・人口も多く、若さの力バもありました。

しかし、過疎と少子化で106年の学び舎「坪野小学校」の灯が消えた昭和56年3月31日にムードは一変、公民館分館として利用していたが、集落と離れていて利用も減少し、冬期間の維持管理が悩みでした。当局の骨折りでコミュニティセンターが建設された時の、地区のようこびは格別でした。祝賀の日が記憶に残っておりま。最後まで諦めることなく夢に向かって進んだ代償で、感謝の気持ちで一杯です。町長始め当局の暖かいご理解の賜です。

夢といえは一つあります。地区唯一の道路「奥道五十子平・真田線」の改良です。昔の郡道、一時は松之山から通じる物資(特に米の運搬道路)として活躍した道路です。今改良が進められていますが、県単事業のせいで肅々と進められております。代行道路の改良の時機を逸して時期が悪くなり、力不足も加わり、あの世での完了になると思ひますが夢を更に大きいものにしております。

合併問題の話が進んだ時も、この一本の道が繋いだのか、地区の皆さんは十日町市との合併希望が多かつたと思います。

新市と天下の名湯までを結ぶ最短道路として完成を夢見ていると、未来が開けてくるようであしくなります。

振りかえって50年

浦田地区協議会長 石塚 幸貞

災害の年あけて今度は豪雪に見舞われ、一難去つて一難、雪国の運命的な悲哀を感じざるを得ない。浦田村が松之山に合併してから今年で50年、一言で語ることでない、さまざま事件があつた。経済の成長・社会資本の充実で、生活様式も人々の心も時代と共に大きく変化してきたのではないかと。しかし私達ふる里の山河は、昔も今も変わることなく悠々と流れている。少年時代は貧困が普通の生活であり、「暮らしは低く理想は高く」の志を持って、夢を都会に求め多くの若者が去つていった。

昭和の大合併といわれた松之山村との合併には、あまり抵抗感がなかつたように思う。今日と比べ、住民意識よりも政治力が支配していたのかも知れない。当時は、小学校と併用していた中学校の独立校舎建設、現在の町道浦田・松之山線の開通、支所機能の設置等が合併の条件であつた。中学校建設は地域の願いでありながら建設位置について三転四転し、浦田地域が真二つに割れて混乱状態になり、青年団も婦人会も親類も含めて険悪な日々が続いたことが印象深い。ようやく妥協を重ねて建設されたのが、現在の松海園の場所である。

その中学校も平成に入り松之山中学校に統合され、今は跡形もなく消えて、松海園の横に記念碑のみがわびしく建っている。当時の紛争が夢の如く懐かしい思い出になつていく。

松之山との合併から半世紀を経て今度は十日町市となり、小さな自治体から大きな自治体へと移りゆく変遷時代は変わっても、地域の歴史や伝統は先人達の築いた財産であり、失うことなく後世に残してゆきたいものである。

合併協議会で決まった新市のビジョンや協定事項を遵守するのは当然であるが、周辺には不便な所、遅れている所も沢山あり、弱者への光を求め地方の声を大にして新市の発展を祈念したい。国の地域再生や特区を活用し、地域が力を出し、元気な地域づくりをみんなで考えていきたいものである。

◆はじめに

地球温暖化をテーマとした3回シリーズ。最終回は、「どうしたら地球温暖化を克服できるか!」についてお話いたします。

まず、これだけは覚えておいて欲しいのですが、私たちは無意識のうちに色々なエネルギーを利用し便利な生活を送っています。そのありがたさが一番分かったのが、皮肉にも中越地震でした。当時、電気、水道、ガスなどあらゆるライフラインが寸断され、一時的にしろ普通の生活が出来なくなり、大変不便な思いをしました。幸いにもガソリンや軽油などの化石燃料は使用可能でしたので代替出来ました。

では、この日常の生活を支えている大切なエネルギーと温室効果ガスの関係について少しお話します。一般に石炭や石油燃料によって生じるエネルギーには、二酸化炭素などの温室効果ガスが発生することは理解できますが、電気を使うのに何で二酸化炭素などの温室効果ガスが出るの?と疑問に思うかもしれません。電気の発電には水力・火力・原子力などがありますが、現状では電力発電の主力は火力発電で、CO₂発生量の3割を占める巨大な発生源なのです。このように私たちの生活を豊にするために消費するエネルギーにはすべてCO₂などの温室効果ガスの発生があると言い換えることが出来るという事を覚えておいて下さい。

◆京都議定書

テレビやマスコミで最近良く取り上げられるので、誰もが言葉として知っている「京都議定書」。でもその内容を正確に分かっている人は意外と少ないのかもしれないので復習してみましょう。

今年の2月16日にこの京都議定書が発効されました。これは地球温暖化を抑止する上で歴史的な第一歩になるでしょう。しかし各国が目標を達成できるか、また最大の温室ガスの発生国であるアメリカが京都議定書からの離脱を表明するなど問題も山積みです。ここで日本に出された宿題は“6つの温室効果ガスを1990年基準（一部は1995年基準）として2008年から2012年の間に6%削減する”という内容です。

しかし、この目標達成は簡単ではありません。ちなみに現在は1990年より温室効果ガスが8%増加しています。つまり、今後3～7年の間に現在の温室効果ガスを14%削減しなければいけないわけです。これは全国民が便利なエネルギーを捨てて、原始的な生活を62日間行って達成できる数字だそうです。そんなの不可能ですね。でも、この国際的な約束事の中にも取り決めやルールがあります。

地球温暖化防止

シリーズ



松之山町地球温暖化防止活動推進員

高橋 樹男

第3回

どうしたら地球温暖化を克服できるか!

その1つは、第1約束期間の目標達成には、“1990年以降”の「直接的かつ人為的」な「植林・再植林・森林減少」によって生じる吸収・排出分に限りて算入できる”とあります。硬い文章で分かりにくいですが簡単に言えば、その森林を再生あるいは増やした分の消費を換算しても良いということです。

他には、“共同実施”という方法があります。これは先進国が共同で温暖化対策事業を行うことによって生まれた排出削減量を、先進国の削減目標の達成に算入できる制度です。

それと、“クリーン開発メカニズム”という制度もあります。先進国が技術や資金を提供し、開発途上国でその国の持続可能な発展を助ける温暖化対策事業を行うことによって生まれた排出削減量を、先進国の削減目標の達成に算入できる制度です。

“排出量取引”と言う制度もあります。これは先進国間で排出割当量の一部を取引することができる制度です。削減目標を達成できない国は、目標以上に削減した先進国から余った削減分を買うことができる制度です。

◆私たちの出来る事

では私たちは、温暖化を防止する為にどんな事が出来るでしょうか。右のグラフを見ていただくと分かると思いますが、家庭が排出する温室効果ガスは全体では13%です。余り効果が期待できないので何もしないのではなく、私たちが出来る事から始める事が大切です。それでは、まず家庭で出来る事で効果が高い順に並べて見ます。

1. 電気、ガス、石油機器などを買う時は、省エネルギータイプのものを選ぶ。

テレビ、冷蔵庫、エアコン、照明器具などは省エネルギー性能の高い製品が市販されています。製品を買い換えるときには、省エネを考慮して購入します。購入の目安としてエコマークの付いている商品を選ぶと良いでしょう。車の購入に際しては、燃費や排気量をよく検討して、必要に応じたサイズを選ぶ事が大切です。狭い日本、それほど大型車は必要ないのかもしれないですね。

2. エアコン・冷蔵庫を正しく棄てる。

エアコンや冷蔵庫には、フロンや代替フロンという温室効果ガスが使われています。捨てるときにはフロンや代替フロンをきちんと回収する業者を選びましょう。(フロン回収破壊法、特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法))

3. 家族が同じ部屋で団らんして過ごす。

家族が別々の部屋で過ごすと、冷暖房も照明も余計にかかります。

4. 近所の人と自動車を共有する。

自動車を個人では所有せずに、近所の人たちと共有します(カーシェアリング)。

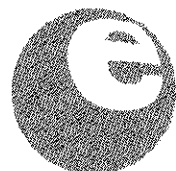
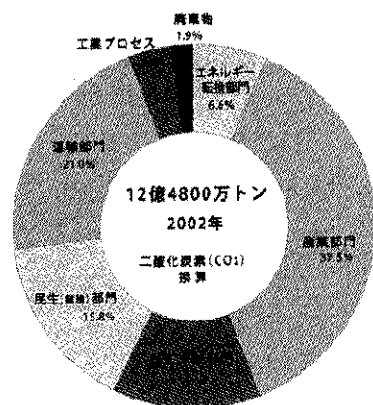
5. 断熱性の高い住宅を建てる。

新しく家を建てる時には、次世代省エネルギー基準を満たす高断熱高気密住宅にします。断熱性の良い家は、省エネで光熱費がかからないだけでなく、温度変化が少ないので快適で健康にもよく、結露も防ぐので住宅も長持ちすると言われています。他にも考えられる事は沢山あります、エネルギーを節約する事は家計を助ける事にも繋がるのです。また節約した分で美味しいものを食べる、なんて事も楽しく温暖化を防止できるのではないのでしょうか。

日本の二酸化炭素部門別排出量 (2002年)

—各部門の間接排出量—

注: 国連環境計画(UNEP)の推定値



省エネ製品に付いている「エコマーク」

◆今後期待される新しい技術

温室効果ガスを削減し、さらに省エネルギーが期待される新技術が実用化されつつあります、その中のいくつかを紹介してみます。

まずは照明です。今後一番期待されているのが“発光ダイオードLED”です。すでに乾電池式の照明には使われていますが、この特徴として非常にエネルギー効率が良いことです。このLEDが安価に大量生産されると、パネル化され、光る天井や壁の未来型住宅が実現するでしょう。

次に蓄電池(バッテリー)に関する技術ですが、今この分野にも革命が起きようとしています、その技術は“キャパシタ”、“イーキャス”、“電気2重層キャパシタ”と呼ばれています。この新技術は電気自動車には強い味方になる技術です。

自然エネルギーを上手に利用して発電しようとする試みも行われています。すでにご存知かと思いますが“風力発電”“太陽光発電”“バイオマス発電”などが期待されています。特にこの地域で有望なのは“雪の冷熱利用”をする事です。これは雪を夏まで上手に保存して、その雪の冷熱を利用して、冷房や野菜などを保存しようという技術です。

◆最後に

今まで私たちは豊かさや便利さを追求してきました、その結果生活は便利になった反面、大量にエネルギーが必要になってきました。私は以前真夏の夜中に富士山に登頂したことがあります。標高3,700mから見た景色は今でも忘れられません。なんと、静岡から東京を中心とする駿河湾一帯が夜中にも拘らず、大きな発光体になって見えるのです。夜中でもこんなに大量にエネルギーを消費し続け、絶え間なく温室効果ガスを撒き散らす文明がいつまでも続くはずはありません。

地球温暖化防止で一番変えなくてはならない事は、私たち一人一人の意識ではないのでしょうか。もうエネルギーの大量消費の時代は終わったのです。これからは自然を上手に利用して、なるべく少ないエネルギーで、自然にも地球環境にも優しい生活をする事が求められるのです。

今、地球温暖化問題は最大の環境問題です。原因は解明されつつあるこの厄介な問題も、現状では解決の光が僅かに見えたと言った程度です。私たちがこの危機をしっかりと認識し、一人一人が家庭や職場でしっかりと活動し、行政や企業も積極的にバックアップすれば、この人類最大の難敵も必ず解決できる問題だと信じ、このシリーズを完結とします。

NPO法人松之山いきいき隊(有償ボランティア)が 新年度から設立されます!!

事務局/松之山町社会福祉協議会内 TEL 596-3705

新年度から松之山地域にNPO法人「松之山いきいき隊」が設立されます。このNPO法人は、高齢化が進むなか地域住民の助け合う組織として設立されます。設立されますと、高齢者世帯の方々などに対して、こんなお手伝いができる予定です。

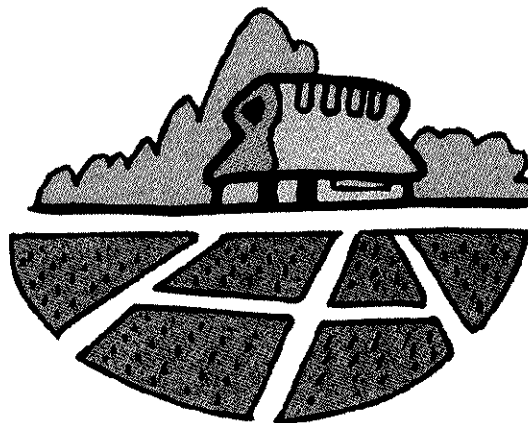


枝おろし
山の管理
農道舗装



・周り片付け
・自給畑の植付等
・草取り、草刈り

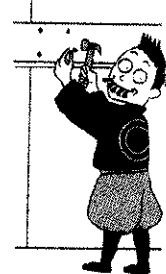
屋根の雪掘 冬場の道付け 個人道の確保 冬囲い
農協、役場事務の取次ぎ 運転手業務 水路確保、管理
障子貼り、襖貼り イベント手伝い 買い物取次ぎ



市や団体からの受託事業



公力の代理
側溝掃除
秋始末
大工作業



受注作業後の流れ 発注者 → 事務局へ電話 → 各地区班長 → 隊員へ連絡 → 受注作業実施

後日、お手伝いさせていただく隊員名簿や料金表等詳しいことを、各戸宛てお知らせいたしますが、高齢者が安心して暮らすためのもので、多岐にわたり活動します。

野鳥だより

松之山町野鳥愛護会

●「コゲラ」……キツツキ目キツツキ科

コゲラはキツツキの仲間では最も小さい種類です。「ギーツ」と鳴きながら雑木林の中を元気に飛び回っている姿が一年中、見受けられます。人家の近くにもよくやってくるので、ご存知の方も多いことでしょう。

子供たちと観察会で林の中に入っていたときです。「ワツ、リスがいた」と男の子が大きな声で叫びました。見ますと枝から枝へ敏捷に移ってゆく動物がいるではありませんか。大きさもちょうどリスくらいです。でも、やがて動きを止めて「タラララ」と一本の枝をくちばしで叩き始めました。キツツキの仲間がよくやるドラミングです。黒っぽい体に白い横線が見えます。コゲラでした。

このコゲラ、最近では都会の公園や庭でも、よく見られるようになったそうですが、それは害虫駆除の薬剤散布が減ったためと、酸性雨などの影響で果を作るための枯れ木が増えているからだ、という説もあって、今後の動きが注目されているそうです。

(文：田辺洋二)



くちばしでドラミングをする「コゲラ」

■今月の定例探鳥会のご案内

▼日時 3月26日(土) 午前5時30分～8時30分まで

▼集合 森の学校「キヨロ口駐車場」

▼その他 小雨・小雪決行。防寒具・長靴など暖かい身支度を。双眼鏡などがあると便利です。かんじきはキヨロ口でお貸しします。



笑顔



満点

しょう
丈ちゃん(1歳5ヶ月)
村山英明・祥子さんの長男
(湯本・山根屋)

●愛称は“ショウショウ”さ。お父さんよりジイに似てるって、みんなはいうよ。カメラのまえじゃ笑わないけど、なぜかシャッター音の後で大笑いちゃうんだ。●好きな食べものは“いちご”と“なっとう”と“かっぱえびせん”。“にんじん”も大好き、おかずの中からひろって食べちゃうんだ。●遊んでいてごはんを食べないと、お母さんが“バア”にあげちゃうよ!”っていうから、ボクも手伝って“バア”に食べさせてあげたんだ。とても喜んでくれたよ。●お得意は“いないいないバア〜”。ネコのタマにも“バア〜!”ってやるんだ! ●天気の良い日はおそとで遊ぶけど、雪の日は、おうちのスベリ台がお友だちさ。うつぶせで滑ることもできるようになったよ!

【お母さんから一言】

人の悪口を言わないやさしい子になってほしい。

【お父さんから一言】

名前のとおり 丈夫な子供になってほしい。

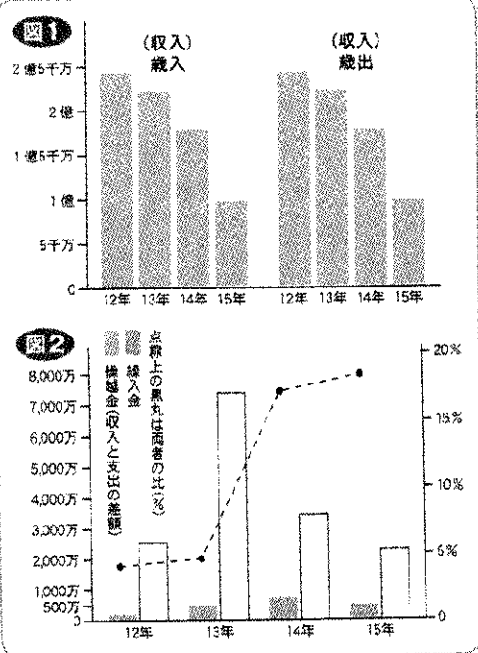
あら た
新大ちゃん(1歳5ヶ月)
小林吉昭・さつきさんの長男
(上鯉池・中道)



●ボク“あらた”っていうんだ。よびやすい名前でしょ。●好きな食べものは、パン、焼きうどん、せんべい。エネルギー系は十分とっているから、いつも元気いっぱいさ! ●“あらた”は、絵本や乗り物いっぱいの本が好きなんだ。乗り物好きは、パパに似たのかな? ●お風呂も大好きさ。いつもパパと一緒に入るんだ。パパの大きな背中だって、しょうずに洗えるよ! ●天気の良い日は、ママとお散歩に行くんだよ。このあいだ雪捨て場で遊んだんだ。雪の上っておもしろいから、全速力で行ったり来たりさ。ママは、「危ないから行かないで!」って、ボクをつかまえるのが大変みたいだったけど……。ママ心配かけてごめんね! ●写真の笑顔ステキでしょ。でもカメラの前でボクがなかなか笑わないから、パパもママも苦労したんだって。つくり笑いは、まだ“あらた”には、むずかしいよ!

【両親から一言】

素直で明るく、元気に育ってほしいと思っています。



最後の診療所だよりとなりましたので、私が松之山に
来からの3年間(13年~15年)の診療所会計の変化を
図にしてみました。

図1は収入と支出の推移です。収入が多いからと言っ
ても、患者さんも町の国保の負担も多くなりますから、
喜んではかりいられませぬ。収支の差が大事です。診療
所会計の規模は4割弱まで圧縮できました。

図2の棒グラフの灰色部分は収入と支出の差(繰越金
額)で、白い部分は町からの繰入金額です。繰越金が多
くても繰入金が多ければ当り前だと言われちゃしたので、
その比を取って見たのが点線上の黒丸です。繰越金の割
合が多くなっているのが一目でわかります。

診療所NEWS

松之山町国保診療所

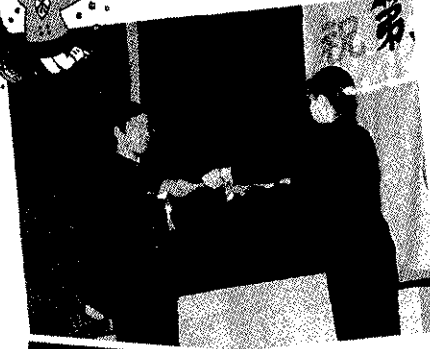
まちかどあれこれ

(ふたなる町へ)

松高・松中の3年生

卒業おめでとう

3年間のそれぞれの思いを胸に、新しい旅立ちへ...

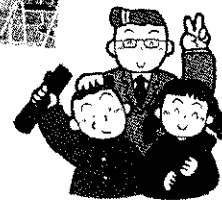


3月8日(火)

松之山中学校

卒業生29名

ふるさとを持つことは宝である。苦しいときはその宝を思い出してください。(井上校長式辞より)



3月4日(金)

安塚高校松之山分校

卒業生11名

いつも明るく前向きに生きてください。今が大切！
一瞬・一瞬が大切！(村山校長式辞より)



～あの松之山地すべりから40年～

防災・まちづくりフォーラム@松之山

3月5日(土) 自然休養村センター

昭和37年に発生した「松之山大地すべり」は松之山中心部を襲い、その動きが翌年以降も止まらず、約850haに及び他に類をみない巨大な地すべりとなり悲惨な爪あとを残しました。

あれから40年経ち、悲惨な地すべりの記憶も忘れ去られつつあった昨年10月23日、新潟県中越地震が発生しました。大地すべりに苦しめられた松之山住民にとっては、とても他人事とは思えませんでした。

日ごろから防災意識を高めるため、あの大地すべりを思い起こし、若い世代に語り継ぎ、そして、松之山から全国に向けて発信しようと、このフォーラムは企画されました。

当日は、地すべりや防災の専門家による「防災・まちづくり対談」をはじめ、松之山地すべりの記録映画の上映、体験者の生の声、松之山朗読教室のみなさんと松之山小学校3年生による朗読と歌「おらが村の空兵衛さ」などメニュー盛りだくさんで、訪れた約2百名の参加者は、過去を思い起こしながら熱心に聞き入っていました。



防災・まちづくり対談



地すべり体験者の生の声



朗読と歌「おらが村の空兵衛さ」

お〜きくそだて! 新1年生



やりたいことがいっぱい!



保坂 翼くん
(豊田・道原)
なわとび



内山 恭祐くん
(松之山・町営住宅)
フロッカンすること



布施 幸宏くん
(黒倉・九左門)
おさんぼすること



佐藤 萌里さん
(天水越・新屋)
スキー



福原ちさとさん
(小谷・平田)
じをかくこと



本山 拓実くん
(田妻立・しなん木)
スキーすること



本山 哲広くん
(善根・大和屋)
とびほごすること



植木 翔太くん
(虎口・稲木屋)
べんきょうすること



小口 紋灯くん
(松之山・みのや)
だいいくすること



高橋 玲奈さん
(天水島・こびき)
おべんきょうすること



柳 依里さん
(湯本・柳屋)
なわとび



高橋 七海さん
(松之山・町営住宅)
だいいくすること



高橋 夏輝くん
(天水島・山根)
さんずのべんきょうすること



高橋 直大くん
(天水島・後新屋敷)
べんきょう



村山 静香さん
(湯本・坂中)
やすみじかん



福原 理沙さん
(小谷・千場)
だいいくがしたい



内山 亮くん
(天水島・駐在所)
べんきょうすること



滝澤 史奈さん
(天水越・小坂)
こくごすること



小野塚今日子さん
(湯本・和泉屋)
こくごすること



高橋 ちなさん
(黒倉・上田)
だいいくすること



佐藤 伶くん
(天水越・幸せん)
だしさんすること



村山 陽向くん
(上川手・森下)
しのべんきょうすること



志賀 聖子さん
(下川手・大前)
だしさんすること



高橋 優香さん
(湯本・川向)
こくごすること



高橋 朝陽くん
(天水島・和四郎)
フロッカンスキーすること



本山 佑くん
(田妻立・宮下)
プールすること



小野塚雄大くん
(黒倉・豊則)
あそびのこと

保育所での楽しい思い出をいっぱいもって、
ワクワク・ドキドキの新1年生27名が誕生します。
学校へ行って楽しみなことは何でしょう。
元気な子供たちからのメッセージを添えて紹介します。



INFORMATION

4月1日より県の地域機関が 十日町地域振興局などに変わります

松代町・松之山町は、県の地域機関は上越地域振興局で担当していましたが、市町村合併に伴い4月1日より十日町地域振興局に変わりますのでご注意ください。(ただし、労政に係る業務は長岡地域振興局、環境及び林業に係る業務は南魚沼地域振興局(六日町)が担当します。)

☎問合せ先：県総務部新行政推進室TEL025-285-5511(内線2135)



INFORMATION

5月1日(日)執行予定 新「十日町市」市長選挙・市議会議員 一般選挙立候補予定者説明会

市町村合併に伴い、新「十日町市」の市長選挙及び市議会議員選挙の立候補予定者説明会を開催します。この説明会では、立候補にあたっての必要な手続きについて説明します。立候補予定者、代理人等の関係者は、出席してください。

	日 時	会 場
市長選説明会	4月4日(月) 午後1時30分から	十日町市保健センター 2階 集団検診室
市議選説明会	4月5日(火) 午後1時30分から	十日町市「クロステン」 2階 中ホール

市議選説明会は、会場の都合がありますので、一候補者につき2人までの出席をお願いします。

☎問い合わせ
十日町市選挙管理委員会
TEL 025-757-3111



INFORMATION

温泉年間入湯券(鷹の湯・翠の湯の共通券)は 温泉センター「鷹の湯」でお申し込みください!

4月から十日町市になることにより、温泉年間入湯券の受付の方法も変更となります。十日町全市民が対象となることから、写真のほか本人と確認できる身分証明証【運転免許証・健康保険証】が新たに必要となります。また、受付窓口を温泉センター「鷹の湯」のみとさせていただきます。

年間券は、現金と引き換えとなり、即日交付できない場合は、引換券を発行させていただきます。年間券を4月上旬までに交付希望の方は、3月25日頃までに申し込み手続きを行っていただき、4月以降のご入浴の際に現金と引き換えにお渡しいたします。

温泉年間入湯券

区 分	年間券料金
市民用個人券	20,000円
市民用家族券	30,000円
市外用個人券	25,000円
市民用老人券	5,000円



必要となるもの

- ①本人写真(縦3cm×横2.5cm)
※写真の裏面に氏名をご記入ください
(家族券の場合は、一人ひとりの写真)
- ②身分証明証
運転免許証か健康保険証
(家族券の場合は、健康保険証を必ず提示)
- ③現金(年間券料金)

70歳以上の方は、免許証か保険証を提示ください。

今まで、70歳以上の方には、「老人入湯証」を発行し、提示していただくと100円でご利用いただけましたが、対象が全市に及ぶことにより、入湯証の発行が困難となりました。

4月以降は、身分証明証(十日町市民で70歳以上であることを証明できるもの、運転免許証か保険証)をその都度、窓口にて提示いただき、100円でご利用ください。

INFORMATION

4月1日より松代・松之山地域の所管が 「ハローワーク十日町」に変更されます

新潟労務局のハローワーク再編整備により、4月1日より松代・松之山地域の所管が「ハローワーク十日町」に変更されますのでお知らせします。なお、所管の変更に伴い、労働保険番号及び適用事業主番号が変更されますので、ハローワークもしくは商工会にご確認ください。

ハローワーク十日町 十日町市下川原町43
(十日町公共職業安定所) TEL 025-757-2407

国民年金からのお知らせ

国民年金の保険料が引き上げられます

国民年金の保険料は、現在13,300円。平成17年4月からは13,580円となり、その後、毎年280円ずつ引き上げられ、平成29年4月以降、16,900円で固定されます。

口座振替がお得になります

平成17年4月から口座振替早収早割制度が導入されます。

毎月の保険料を早期（当月保険料を当月末引落とし）に振替することで40円割引となります。
※現在の口座振替は1ヶ月遅れで引落とされています。（例：4月分は5月末引落とし）

◎お申し込み後初回に2ヶ月分の保険料（割引のない保険料+40円割引された保険料）の口座振替を行います。

◎半額免除の方は口座振替は早割制度の対象となりませんのでご注意ください。

口座振替で1年間の保険料を前納（まとめて先に納めること）すると、年間の保険料から3,420円割引となります。

現金納付の割引額2,890円と比べて530円お得です。

◎6か月前納でも口座振替がお得です。

◎すでに口座振替で前納をご利用いただいている方は届出不要です。

平成17年度	13,580円	毎年280円ずつ アップ
平成18年度	13,860円	
平成19年度	14,140円	
平成20年度	14,420円	
平成21年度	14,700円	
平成22年度	14,980円	
平成23年度	15,260円	
平成24年度	15,540円	
平成25年度	15,820円	
平成26年度	16,100円	
平成27年度	16,380円	
平成28年度	16,660円	
平成29年度以降	16,900円	固定



◆申し出先／社会保険事務所国民年金課
（社会保険事務所に行くことが難しい場合は役場担当までご相談ください。）

◆役場担当／役場総務課住民係 山岸

乳幼児の予防接種 実施方法の変更のお知らせ

市町村合併に伴い、乳幼児の予防接種について調整した事項のうち被接種者に直接かわかることについてお知らせしますので、新年度からは以下のことについて留意してください。

対象者への通知方法の変更について

(1) 予防接種の個人通知は行なわないことになりましたので、接種日程等は次によりご確認ください。

- 年度末に健康カレンダー（新年度保健事業日程一覧）を配布します。
- 市の広報紙に翌月の日程を掲載します。

(2) 平成15年4月2日以降に生まれた子には、予防接種予診票の冊子を送付します。（冊子には、各種健診問診票も含まれています。）

- 冊子には、乳幼児期に接種する全ての予防接種の予診票が入っていますので、小学校に入学するまで大切に保管してください。
- 上記の対象者以外の方には、対象の予防接種の時期に予診票を送付します。

接種会場について

(1) 新年度から松代・松之山在住の方は合同接種となりますので、予防接種ごとに会場が異なりますので、健康カレンダー又は市報等でご確認のうえおいでください。

(2) 接種は在住する支所管内の会場（松代・松之山）で受けることが基本になります。※但し、お子さんの体調等が整わないときや、支所管内での接種機会がない場合は、他の会場で接種することができま。なお、会場を変更する場合は、必ず前日まで

に接種を受けようとする会場の支所へ連絡してください。

麻疹・風疹の個別接種について

(1) 松之山支所管内に在住のお子さんが麻疹・風疹の予防接種を受ける場合、松之山診療所に限り、1歳過ぎたら随時予防接種の申込みをすることができま。

※接種を受けた時は、直接松之山診療所（電話596-2240）に連絡予約をしてください。

(2) 松之山診療所以外での個別接種を希望する場合は、支所へ接種の申込み（春秋実施）が必要です。

問合せ先 松之山町保健センター 保健師まで（電話596-3705）

※4月1日以降は松之山支所の健康福祉課へ（電話596-2169）





湯鳥ガイド



松之山町生涯学習だより 公民館 ☎596-2265



【木羽屋根葺き替え作業のビデオ完成】

昨年秋から制作してきた木羽屋根葺き替え作業のビデオが「雪国木羽屋根物語」として完成しました。町の図書館と公民館で貸し出しますのでご利用下さい。



【奎べえさんの音楽劇とボイコさんのコンサート開催される】

2月26日、松之山小学校3・5年生による「奎べえさんの音楽劇」と松代在住のボイコ・ストヤーノフさんの楽しいピアノコンサートが自然休養村センターで開催されました。当日は大雪にもかかわらず会場いっぱいのお客さんにおいでいただき、小学生の透き通るような歌声と奎べえ伝説の熱演に大きな拍手が送られました。

また、2部のボイコさんのコンサートは、音楽家の紹介を交えながら、美しい曲から愉快で楽しい曲まで盛りだくさんの内容でした。

みんなで合唱したり、韓国映画で大ブレイクした「冬のソナタ」のアレンジ曲も聞かせていただきました。



松之山小学校3・5年生による「奎べえさんの音楽劇」



ボイコ・ストヤーノフさんの楽しいピアノコンサート

【新しく入った図書】

- | | | | |
|-----------|-------------|--------------------|-------|
| ■ クラパート | プロイスラー | ■ 下弦の月 | 下川 香苗 |
| ■ 豊かさとは何か | 瑛 淑子 | ■ 夢ってなに | 秋山さと子 |
| ■ 愛する源氏物語 | 依 万智 | ■ 世界がもし100人の村だったら | 池田香代子 |
| ■ 百人一首 | 依 万智 | ■ 世界がもし100人の村だったら2 | 池田香代子 |
| ■ まさ夢いちじく | C・V・オールズバーク | ■ 淳之介さんのこと | 宮城まり子 |

3月のイベント内容

3月16日
4月15日

「湯島大学」の

受講生募集

平成17年度高齢者学習講座「湯島大学」の受講生を募集します。対象は65歳以上の方です。

4月初めに「教室講座案内」を発行しますので、その内容によってお申し込みください。

回数 月1回

(5月から始まります)

▼会場 自然休養村センター

▼時間 午前9時30分～11時30分

▼交通 往復とも町営バスか、

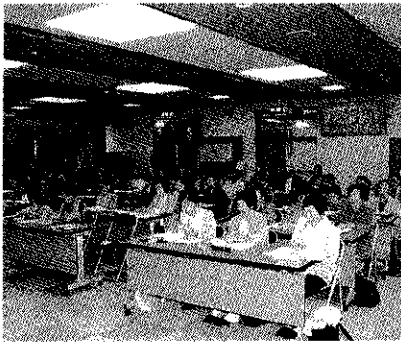
自家用車でおいで下さい。

▼持ち物 筆記用具、受講手帳

▼申込方法 4月28日(木)までに町公民館へ、電話か申込票にてお申し込み下さい。

▼問い合わせ 町公民館まで

☎ 596-2265



県スキー連盟公認

第19回松之山温泉

クロスカントリースキー大会



▼期日 4月10日(日)

▼時間 午前8時30分～午後2時

▼会場 大蔵寺高原

クロスカントリーコース

▼種目

①小学5年(男子・女子)

②小学6年(男子・女子)

③中学1年(男子・女子)

④中学2・3年(男子・女子)

⑤少年男子(高校生)

⑥成年男子

⑦高校生女子・成年女子

★(2005年4月2日現在の年齢・学齢とする)

★学校長の許可があれば、小学4年生も出場可。ただし5年生の部とする。

▼申込期限 4月5日(火)厳守

▼申込・連絡先 町公民館

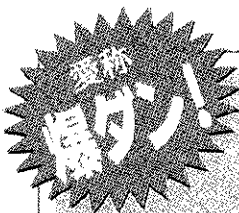
☎ 596-2265

▼参加料 1,000円

▼表彰 各組1～3位トロフィー、

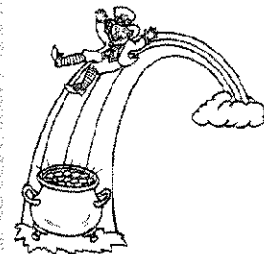
1～6位まで表彰

1～6位まで表彰



Happy St. Patrick's Day

Happy St. Patrick's Day



今年のセント・パトリックス・デイに伴って保育園と小学校向けの塗り絵コンテストを開催するところなので、皆様にこのホリデーを説明しようと思う。

さて、3月17日はSt. Patrick's Dayだ。セント・パトリックス・デイという日はアメリカ・イギリス・アイルランドでセント・パトリックというキリスト教の聖人を祝う日だ。学校ではゲームで遊んだり、お菓子を食べたりしながら、アイルランドの文化を楽しむ日だ。バレンタイン・デイ(西欧で「St. Valentine's Day」みたいに、ちゃんとしたホリデーじゃないけどね。

セント・パトリックというのは、もともとアイルランドにキリスト教を布教した人だ。キリスト教の神様を説明するために、クローバを使ったので、昔から今日に至までクローバがアイルランドとセント・パトリックス・デイのシンボルと認められている。

クローバの影響で、グリーンという色がアイルランドを代表することになったから、セント・パトリックス・デイの日にはグリーン色の洋服を着るのが幸福と言われている。ちなみに、海外ではセント・パトリックス・デイの日にはグリーン色のものを着ない人がツネられちゃう、という伝統がある。

クローバの他、アイルランドの昔からの伝説で伝わったLeprechaun(レプレコン)がセント・パトリックス・デイのイメージだ。レプレコンというのは、小さな老人の姿をした妖精だ。虹の向こうで黄金の宝が待っていると噂されて、レプレコンはこの宝を守るものだ。だから、レプレコン・虹・金の宝もセント・パトリックス・デイのイメージともなる。

St. Patrick's Day楽しんでね! タニエル・アコロバット



日替わりけんちん汁定食

キョロロの食体験工房で各集落のけんちん汁を定食でお出しします。(一食600円)

3月19日～21日には、上鰯池集落のけんちん汁が楽しめます。



キョロロの地炉にいらっしやい!

毎週日曜日には、昔懐かしい地炉(いろり)端で、あそば、せんべい、焼餅などの実演サービスをしています。

伝統工芸実演

松之山の名人たちが、伝統工芸の技を12月～3月まで毎週日曜日 10:00～15:00までキョロロホールで披露します。とくにご覧あれ!

3月6日: 民家

3月13日: 野鳥こけし

3月20日: 桶

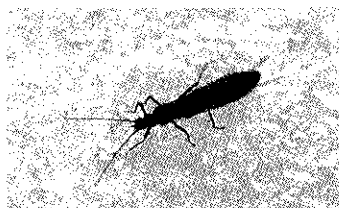
3月27日: 桶・ワラ細工



生き物トピック

ユキムシ

雪解けのころになるとあちこちで見られるのがユキムシです。松之山では「ユキムシがたくさん出てくようになれば、雪は大して降らない」といわれ、春の使者的な存在です。雪上で活動する「ユキムシ」にはセッケイカワゲラのように体長が1センチ以上になるものからトビムシ類のように体長数ミリ程度のもので、いろいろな虫がいます。ここでは須山で見られる代表的なユキムシの紹介をします。



セッケイカワゲラの仲間(体長1～2cm)

セッケイカワゲラの仲間

日本ではセッケイカワゲラ属とセッケイカワゲラモドキ属で8種以上が知られています。秋に川の中で育ち、冬になると雪の上のエサを食べながら成虫になります。早春に交尾・産卵します。



ババユキノミ(体長約4mm)



コシジマルトビムシ(体長約2mm)

トビムシの仲間

雪上活動するトビムシには、県下でも7種がみつかっています。須山でもババユキノミ・コシジマルトビムシ・ボクシヒメトビムシの3種に加えて何種かのトビムシが雪上で活動しています。これらのトビムシの生活史はわかって



ボクシヒメトビムシ(体長約1.5mm)

ていませんが、雪の上では樹皮や落ち葉などに集まり菌類を食べています。

おわりに.....

松之山の2年間の
感想を一言

松之山に来てあつという間の2年間でした。松之山の自然の豊かさ、人の温かさ、雪との付き合い方を知りました。「冬は雪がなければ雪ほりという仕事が無くなることになり、夏は草が生えなければ草刈りという仕事が無くなることになり、そう思つて、あとは腹をたてなければ、長生きできる。」最近、あるおじいちゃんから聞いた言葉です。松之山人の気質がよく表れている言葉だと思ひます。働き者で我慢強い松之山人の気質を、ここに在る間に少しでも身につけたいと思つています。松之山豪雪文化展、棚田再生事業などをはじめ、キョロロの活動にご協力してくださったみなさんに、この場を借りてお礼を申し上げます。合併後、キョロロがどうなつていくか不安もありますが、お客様に喜んでいただけること、自分にできることを精一杯やつていきたいと思ひます。平成17年度もよろしくお願ひいたします。(畑田 彩)

松之山
CALENDAR

カレンダー

4

APRIL 2005

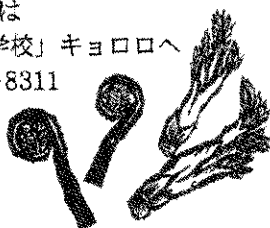
1 [金]	新生十日町市誕生 春の火災予防運動 ～7日まで	14 [木]	
2 [土]		15 [金]	
3 [日]		16 [土]	松之山山菜展(キョロロ) ～6/29まで 探鳥会+田んぼの生き物調査(キョロロ集合)
4 [月]	松之山保育園入園式 市長選挙立候補予定者説明会(十日町市保健センター)	17 [日]	大安
5 [火]	小・中学校入学式 市議会議員選挙立候補予定者説明会(クロスステン)	18 [月]	
6 [水]	大安 春の全国交通安全運動 ～15日まで	19 [火]	
7 [木]	ポリオ予防接種(松代総合センター)	20 [水]	
8 [金]		21 [木]	
9 [土]		22 [金]	
10 [日]	第19回松之山温泉クロスカントリースキー選手権大会(大蔵寺高原) 燐炭撤去(キョロロの田んぼ)	23 [土]	大安
11 [月]	大安 高校松之山分校入学式	24 [日]	
12 [火]	BCG予防接種(松之山診療所)	25 [月]	
13 [水]		26 [火]	
		27 [水]	
		28 [木]	
		29 [金]	大安 みどりの日 クリーン大作戦 松之山診療所休日当番医 民俗資料館オープン
		30 [土]	第10回里山学会「日本の原風景を守る(仮)」(松之山体育館) 山菜観察会(キョロロ) 春の星空観察会(キョロロ)

「森の学校」キョロロ
松之山「山菜展」
4月16日(土)～6月29日(水)

松之山の多様な山菜の、実物や写真と調理法などの解説を展示します。山菜の宝庫としての本地域の魅力を再発見しましょう。期間中は、バードピア須山で散策会を開催し、山菜の観察と野外で調理して味わう関連イベントも行われます。

※詳しくは

「森の学校」キョロロへ
☎595-8311



「わたしたちの地域をみんなの力で美しく！」をスローガンに、今年も地域内一斉にクリーン大作戦が行われます。道路の空き缶やゴミ拾いに、大勢の方のご協力をお願いします。

●期日/4月29日(金)みどりの日
●時間/午前7時～8時(雨天決行)
●持ち物/ゴミ袋を持参して下さい。
※詳しくは松之山公民館へ
☎596-2265

第10回「里山学会」
4月30日(土) 会場:町民体育館



第10回目となる里山学会は、「日本の原風景を守る(仮)」と題し、松之山の里山の価値とそれを守る方法論をテーマにシンポジウムを開きます。講師は霧谷いづみ教授、長濱建一郎氏、山本徳司先生を予定しています。

※詳しくは「森の学校」キョロロへ
☎595-8311



おめでた（出生）

たつひろ

龍大ちゃん

村山一司・程代さん（北浦田・羽場）

おこやみ（死亡）

山岸 剛さん 80歳 新山（元桶屋）

* 2月1日から2月28日までの届出分です。

* 広報に載せてほしくない方は、届出の時に窓口にお話ください。

町の動き

2月28日現在

総人口 2,987人（-2）

男 1,454人（-2）

女 1,533人（±0）

世帯数 1,088戸（-2）

（ ）内は前月との比較

町民憲章

昭和53年7月制定

わたしたちは松之山町民です。郷土を愛し、みんなでよりよい町づくりをしよう。

町民の合言葉

- 1、美しい緑と雪の中で
心豊かな人になろう
- 1、ブナの梢が触れ合うように
連体の心をもとう
- 1、湧きいづる湯泉のように
創造の力を高めよう

温泉定休日

温泉センター

翠の湯

3月

10・24

冬期休業中

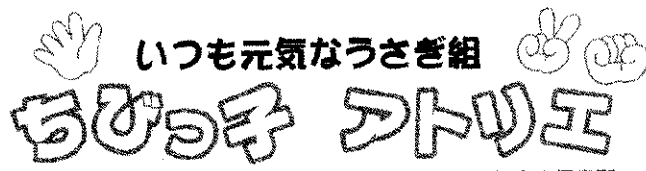
4月

14・28

開館日は未定です



町の広報誌は昭和38年5月に「村だより」として
発刊をあげて以来、47年間にわたり、町の動きや出
来事など四季折々の情報をお伝えしてきましたが、
今回の第349号をもって最後を迎えました。私も1年という短
い間でしたが、取材を通じて、松之山を再発見することがで
きました。ご協力いただきました方々に感謝します。「いよ
いよあと2週間足らずで新しい十日町市が誕生です。ありが
とう松之山町！そして、未来へはばたけ松之地域！」（大見）



松之山保育所



あけい
布施 葵さん
（黒倉・久喜）

“なわとび”しているところ

好きなお遊び トランポリン
すること

春の火災予防運動

4月1日（金）
～4月7日（木）

スローガン

火は消した？
いつも心に
きいてみて



暖かくなってくると火の扱いに気がゆるみます。
暖房器具の取り扱いには特に注意しましょう。

春の全国交通安全運動

4月6日（水）
～4月15日（金）

スローガン

小さな手
大きく上げて
渡ろうよ



新学期が始まります。通園・通学時の交通事故に
特にご注意下さい。

善意に感謝

町福祉事業に役立てていただきたいと、町社会福祉協議
会にご寄付をいただきました。誠にありがとうございました。

- ◆ 赤 倉 村山孝子 様 金5千円
- ◆ 千葉県船橋市 灘山健治 様 金1万円

献血にご協力ください！

◆ 3月30日（水）午前9時～12時

◆ 松之山町役場

※全血（200ml・400ml）献血です。

